

立ち国民俳句会に出席。碧雲居は中外新報記者であった。

吟社水無月例会、作者34人、選者28人、長頸子13点をとる。

曲水(2-1)。句帖他に5句。山崎楽堂選の季題寸言集に

短文「干菜」他7章が見える。

7月・寒燈句会、3日亜石方、6日長頸子方、15日樹人方で。

吟社7月例会、席題「薰風、裸」。

「曲水」(2-2)。第2回募集文章入選4編中、長頸子「稲

盗人」。選者楽堂の選評。

8月・曲水(2-3)、句帖の6句に静岡長頸子とあり、2

4句帖も同様であるから、7月から9月にかけて帰省してい

たと考えられる。

吟社7月例会記事(長頸子記)に4句。

9月・「曲水」(2-4)。句帖に静岡長頸子として5句、他

に2句。8月1日メ切りの第3回募集文出題「下女の伝」に入

選の「紙繕り」が載る、楽堂の選評。

11日、東京青木幸太郎宛上京を知らせるハガキ。

寒燈句会、15日、22日、29日、長頸子方で開く。

19日、青木幸太郎宛ハガキ。

23日、吟社の墨堤吟行に加わる。

10月1日・暴風雨、東京下町に津波襲来。

寒燈句会、6日、20日、27日長頸子方、13日樹人方で催す。

7日・吟社10月例会。上野花山亭、席題「草花」に2句。

28日・吟社小石川植物園吟行、3句。

「曲水」(2-5)、句帖3句、他に3句。9月の墨堤吟行の

記事を記す。

、11月4日・吟社11月例会、席題「木犀、障子張る」作者34

名、選者31名、互選句21点をとり最多。

寒燈句会、3日、24日樹人方、10日長頸子方。

「曲水」(2-6)、句帖他に6句。

12月1日、8日・寒燈句会。於流觴居。

吟社師走例会、席題「枯草」。互選句21点で最多得点。

「曲水」(2-7)、句帖他に6句。

30日付 青木よしを宛ハガキ。

#### ▽大正7年(1918)

1月・郷里の家で迎春。

2日付青木幸太郎宛賀状。

6日・静岡市鷹匠町3丁目長頸子宅で曲水句会。会の模様は

「曲水」(2-9)に樹人の「静岡句会の記」があり、長頸子が

「附記」を書いている。

8日、11日、17日付青木幸太郎宛ハガキ。17日付の文面に、

「二、三日前上京」とある。

19日・寒燈句会、長頸子方。

20日・国民俳句会出席。夜、流觴居で句会、席題「風邪」1

句。

22日・流觴居で句会、席題「枇杷の花、冬空」。

26日付青木幸太郎宛、差出人「寒燈会三人」とある(筆跡は

長頸子)。

31日付青木幸太郎宛ハガキに「あの頃以来風邪の熱やら歯痛

のなやみやらずと弱っている」とあり。

「曲水」(2-8)(正月号)。巻頭「五人の春」として、水巴

(6句)樹人(4)苔雨(2)よしを(2)長頸子(2)の正